

令和6年度 真鶴町学校建設準備委員会（第7回） グループワーク

【グループワーク】

日時：令和6年9月17日（火）

14:00～15:30

場所：真鶴町民センター 3階 講堂

出席者：大塚委員、瀬藤委員、藤井委員、玉田委員、小林委員、竹原委員、山口委員、露委員、

朝倉委員、古川委員、伊藤委員、瀧本委員、倉澤委員、露木委員、市川委員、（事務局15名）

進め方：2部構成とし、第1部を「真鶴町がめざしたい幼（保）小中一貫教育の姿」をテーマとし、3つの視点

（学ぶ子どもの姿、学ぶ教師の姿、学ぶ地域社会の姿）ごとに3グループに分かれ話し合い後、発表し、

第2部では「真鶴町の新しい学校像～めざす学校像と学校の形態について～」をテーマに話し合い、発表を行った。

テーマ1

「真鶴町がめざしたい幼（保）小中一貫教育校の姿」

グループ1 視点：学ぶ子どもの姿

（瀬藤委員、山口委員、露委員、古川委員、瀧本委員、塩田指導主事）

キーワード

「自然、人とのつながり」

〈現在の真鶴の子どもたち〉

- ・自分たちで遊びを作り出す力が優れている。

〈どんな子どもを育てたいか(目標)〉

- ・自然の中で子どもが育つ。
- ・自発的に考えられる。
- ・持っている力を活かせ、表現できる。
- ・選択できる環境がある。

〈目標に対するアプローチ〉

○地域の人達と学ぶ

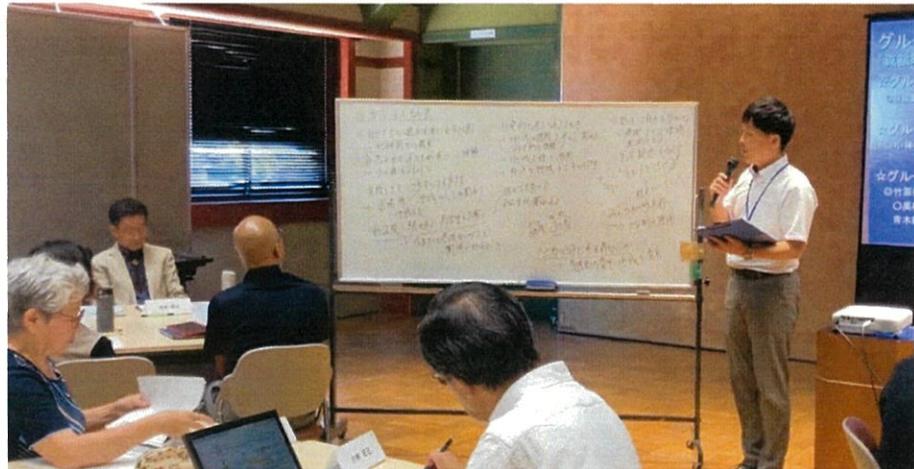
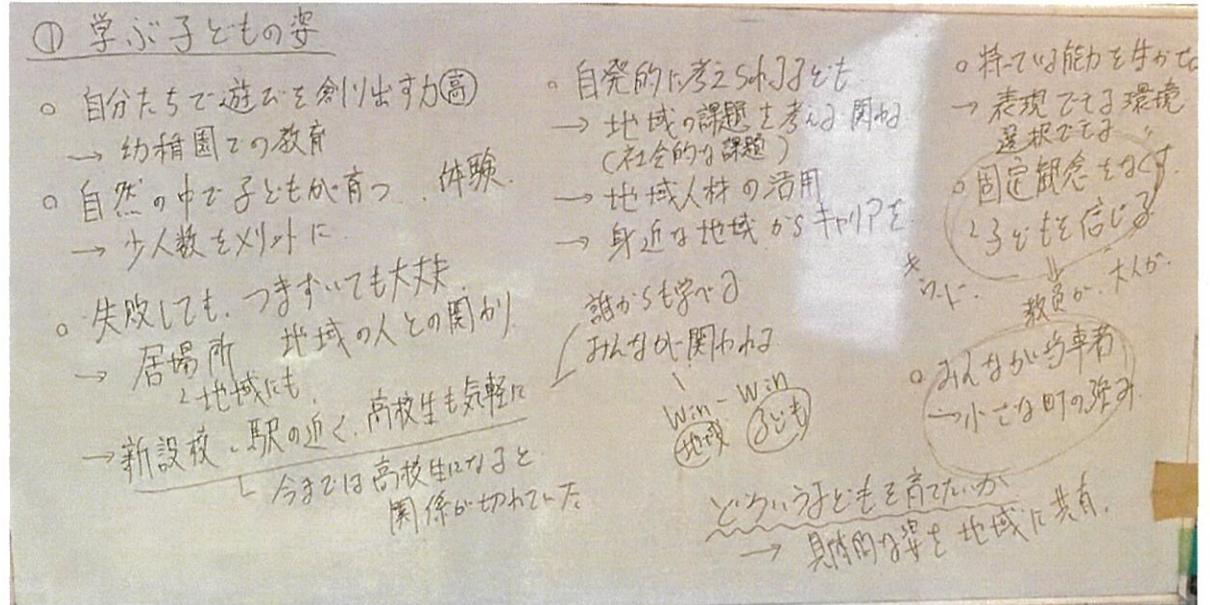
- ・敷地が駅の近くにあることから、高校生も気軽に立ち寄ることができ、高校生から学ぶことができる。
- ・地域の課題(人口問題等)を地域の人々と共に学ぶ。
- ・地域の人達からキャリアについて学び考える。
- ・地域の人達は子ども達から元気をもらい、地域と子どものwin-winな関係性をつくる。

○地域環境づくり

- ・地域の中に居場所があり、失敗しても大丈夫な環境づくり、みんなが当事者と思える環境づくりが望まれる。
- ・固定観念をなくし、大人が子どもを信じる。

〈今後大事にしていくこと〉

- ・どういう子どもを育てたいか具体的な姿を地域に共有・発信していくことが大切である。



グループ1の
主な意見

グループ1の
発表の様子

テーマ1

「真鶴町がめざしたい幼（保）小中一貫教育校の姿」

グループ2 視点：学ぶ教師の姿

（小林委員、伊藤委員、露木委員、市川委員、倉澤委員）

キーワード

「ワンチームで安心できる学校づくり」

〈これまでの小学校と中学校、幼稚園との関係〉

- ・これまで小・中学校でそれぞれ研究を進めてきたが、小中の距離が埋まらなかった。
- ・現在も幼稚園生と中学生、幼稚園生と5年生などの交流があり、関係性は築かれている。

〈どんな学校にしていきたいか〉

- ・9年間の学びを通して子どもの学びや成長を見守っていきたい。
- ・1つの学校で1つの組織にした方がよい。

〈義務教育学校での課題と対策〉

○制度・運営

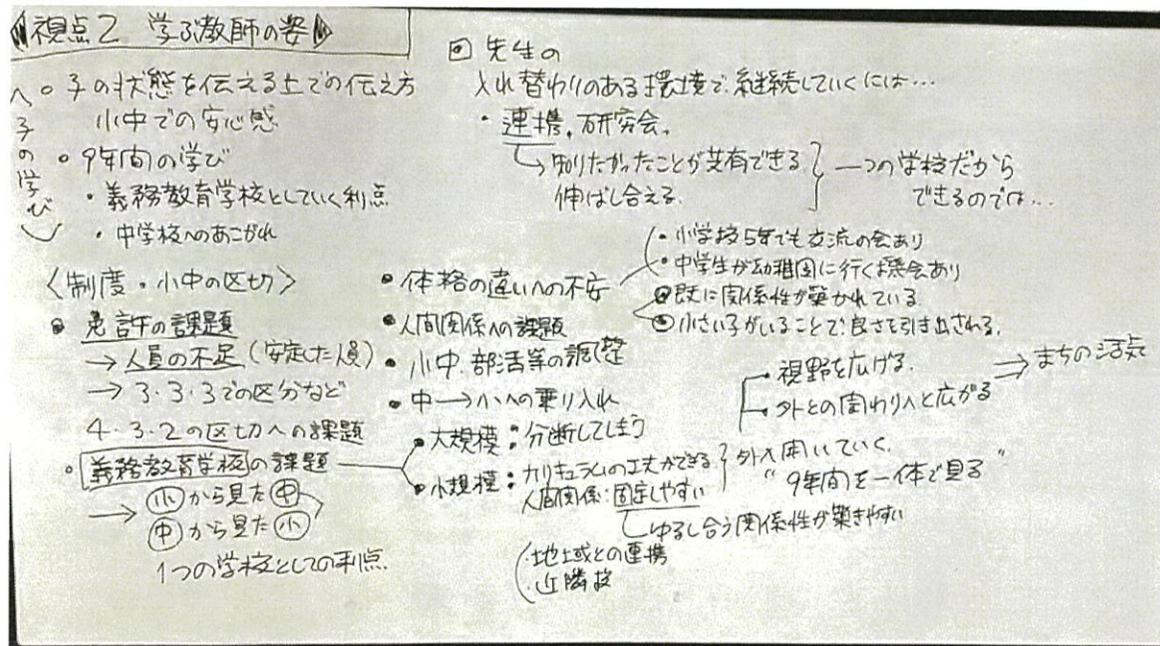
- ・学年の区切り方は今後の検討課題である。
- ・小・中学校双方の教員免許を持つ教職員を集める必要があり、人員不足が懸念される。
⇒文部科学省による教員免許取得要件などにおける弾力的な措置なども検討されている。

○人間関係

- ・小規模校であるがゆえに、人間関係や友達関係の固定化が心配である。
⇒周辺地域など外部に開くことで、地域との連携や新たな関係性を築き、まちの活気に繋がれるとよい。

〈今後大事にしていくこと〉

- ・今後様々な課題が出ると思われるが、ワンチームで乗り越えていくことが大切である。



グループ2の
主な意見

グループ2の
発表の様子

テーマ1

「真鶴町がめざしたい幼（保）小中一貫教育校の姿」

○グループ3 視点：学ぶ地域社会の姿

（竹原委員、大塚委員、藤井委員、玉田委員、朝倉委員、奥村指導員、青木総務防災課長、卜部福祉課長、飯塚健康長寿課長）

キーワード

「色々な人が携わり、濃い教育環境をつくる」

〈現在の真鶴でのコミュニティスクール〉

- ・現在、まなづる小学校にはコミュニティスクールが作られているが、実感がないという意見もある。
- ⇒コミュニティスクールは、じわじわと効果が出てくる。

〈どんな学校にしていくか〉

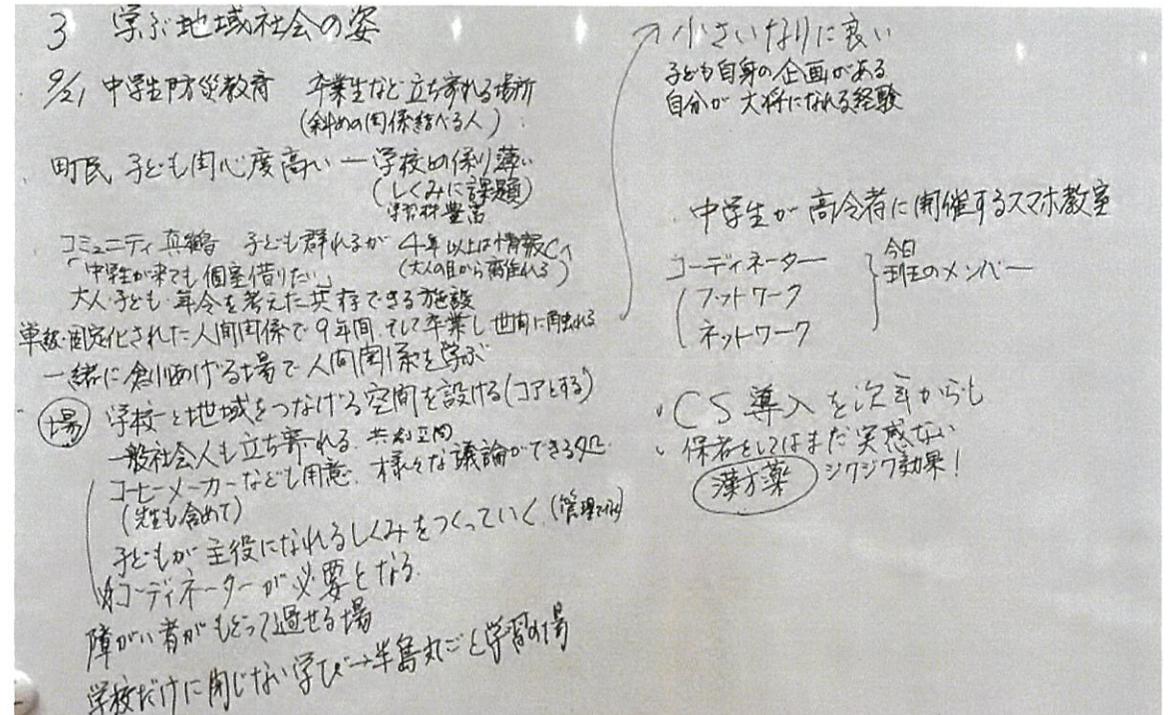
- ・誰もが出入りできる空間をつくり、学校帰りの高校生や大学生、社会人、乳幼児を連れた保護者等が関わり合えるようにする。
- ・世代を超えた学びの場をつくることで、学校の教育の中に様々な人が携わり、濃い教育環境になる。真鶴は小さいからこそより濃くなる。「半島まるごと」とはこういうことだと思う。
- ・子どもが地域と関わることで、子どもを活かし、主体的に動ける環境づくりを行う。
- ・子どもの当事者意識を高めることで町民性が育まれ、地域を愛し地域に戻ってくる可能性を高められる。
- ・福祉、まちづくり、防災、企業、商店等の関係者がキャリア教育に携わる機会を増やす。

〈地域コーディネーターの整備〉

- ・キャリア教育をするために教員が交渉等を行っていたが、地域が協働活動を立ち上げることで、特別職の公務員であるコーディネーターを法的に整備する。
- ・コーディネーターは教員や地域がしたい学びを実現するための調整役となることで、教員は教えることに注力できる。
- ・コーディネーターがいることで、誰もが出入りできる空間が活きてくる。

〈今後大事にしていくこと〉

- ・来年度から法的に真鶴町の小・中学校一体型でコミュニティスクールを作り、新設校に向けての助走をつけたい。
- ・コミュニティスクールにした場合に派手に動く必要はなく、情報や思いを共有するだけでもよい。



グループ3の
主な意見



グループ3の
発表の様子

テーマ2

「真鶴町の新しい学校像 ～めざす学校像と学校の形態について～」

グループ1

(瀬瀬委員、露木委員、市川委員、玉田委員、朝倉委員、塩田指導主事、青木総務防災課長)

キーワード

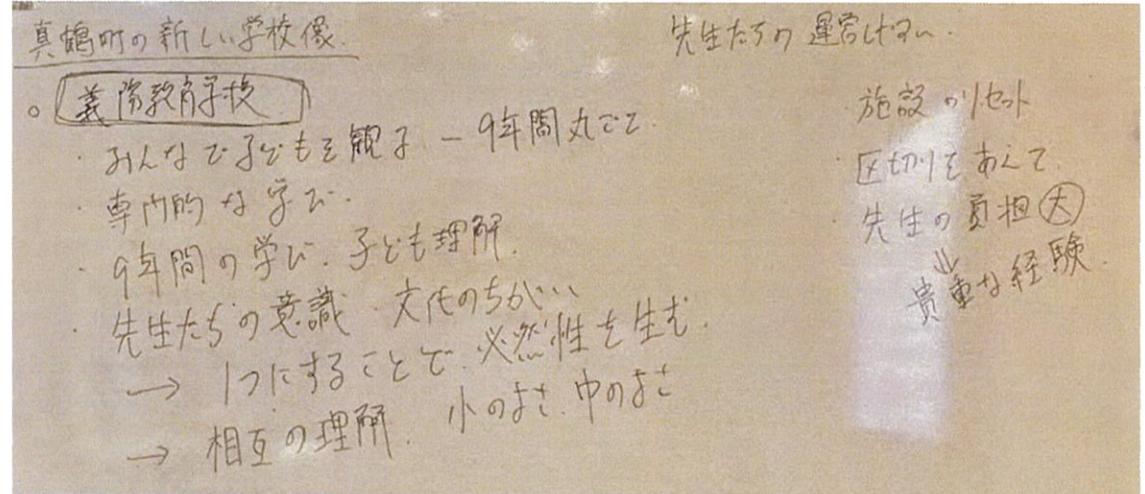
「義務教育学校での教員の姿勢」

〈義務教育学校のメリット〉

- ・9年間を通して、皆で子どもをみることで、専門的な学びを充実でき、子どもに対する目標や理解が共有できる。

〈義務教育学校のデメリットと対策〉

- ・小学校と中学校の教員の文化や考えの違いが障壁となることがあると思うが、学校を1つにすることでやらなくてはいけないという必然性が生まれると思う。
- ・教員の負担は大きいと思うが、小学校の良さと中学校の良さを互いに活かし合い、先生方の相互理解を深められる等のメリットと捉えて、取り組んでいただければと思う。



グループ1の主な意見

グループ2

(小林委員、古川委員、瀧本委員、大塚委員、倉澤委員、飯塚健康長寿課長)

キーワード

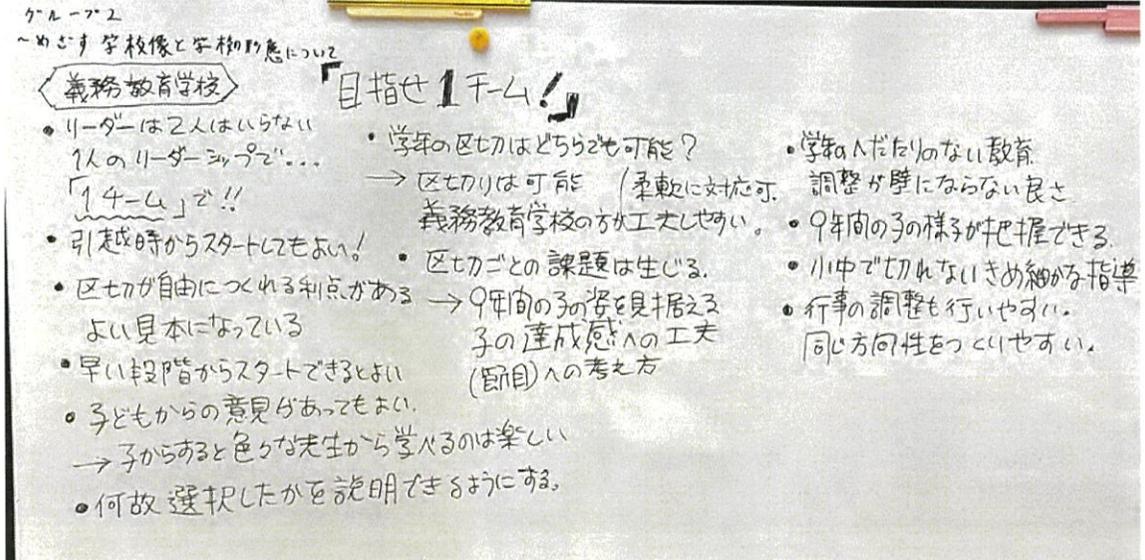
「目指せ1チーム 義務教育学校」

〈義務教育学校のメリット〉

- ・1チームになれば、リーダーが1人で意思決定がしやすい。
- ・9年間の子どもの様子把握でき、切れ目のないきめ細やかな指導が行いやすい。
- ・教科担任制などの早期導入により、専門性のある学びに出会えるとともに色々な先生から教わることができる。

〈今後の課題〉

- ・義務教育学校に決定していく中で子どもの気持ちや意見を聞き、大人の責任で決定していく。
- ・9年間を通して子どもの達成感をどのように感じさせるかは工夫が必要である。
- ・仮校舎の段階から1チームで取り組んでも良いと思う。



グループ2の主な意見

テーマ2

「真鶴町の新しい学校像 ～めざす学校像と学校の形態について～」

グループ3

（竹原委員、山口委員、露委員、伊藤委員、藤井委員、奥村指導員、卜部福祉課長）

キーワード

「町の社会課題を考えられる学校」

〈コミュニティスクールの整備〉

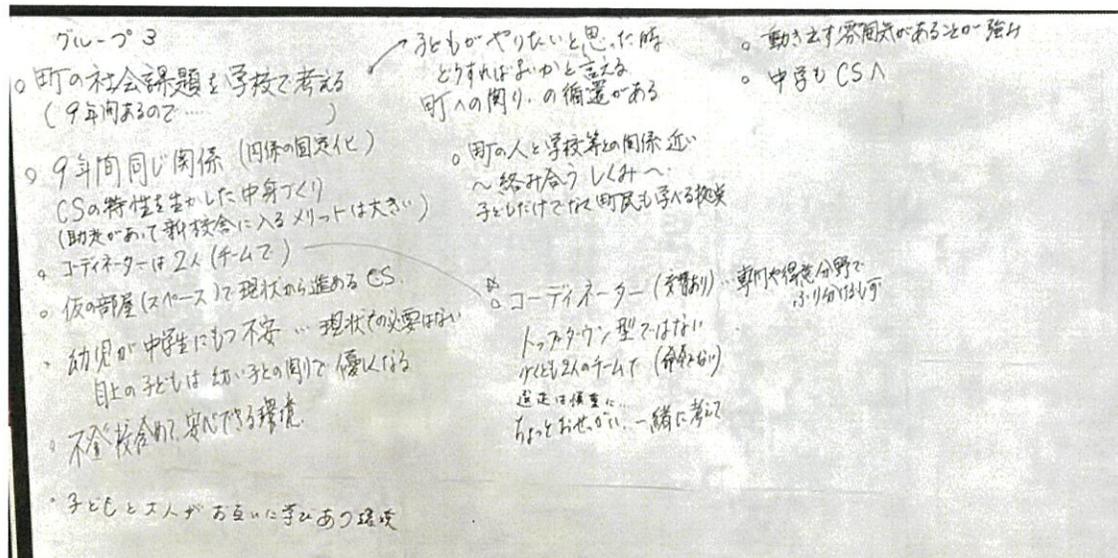
- ・仮校舎になった段階からコミュニティスクールを導入し、限られたスペースでも地域と子どもがつながる止まり木のような共創スペースを設置したい。
- ・共創スペースではお茶が飲めたり、地域の人々が新しい学校を考えるきっかけとなる場所にしたい。
- ・地域との接点を持つことで、不登校の子を救える環境ができる可能性がある。例えば、地域で畑を手伝う活動等を登校したことにするような仕組みが作れるかもしれない。
- ・地域の人々は子どもと話すことで学びがあるかもしれない。

〈コーディネーターの配置〉

- ・真鶴町では少人数による人間関係の固定化が心配されているが、コーディネーターがいることで地域、町外、世界、オンラインでつなぎ、デメリットを解消できることを広めていきたい。

〈義務教育学校の課題〉

- ・小学校と中学校の体格の違いが課題として挙げられるが、真鶴町では、元々人の距離が近いことから兄弟のような関わりができるのではないかと思う。



グループ3の主な意見



会場の様子